

主 論 文 要 旨

報 告 番 号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	姫 野 優 貴 弘
主 論 文 題 名				
Post-Discharge Self-Care Confidence and Performance Levels in Patients Hospitalized due to Heart Failure (心不全入院患者における退院後のセルフケアに関する自信度と達成度)				
(内 容 の 要 旨)				
心不全の管理には、適切なセルフケアが不可欠である。また、心不全入院患者の在宅への移行期ケアを成功させるためには、多職種による集学的な指導を通じて、患者のセルフケアに対する自信度を高めることが重要である。しかし、セルフケアに対する自信度とその後の臨床転帰を評価した研究は十分ではない。そこで本研究は、心不全による入院患者における入院中のセルフケアの自信度と退院後の達成度との関連、およびセルフケア達成度が長期的な臨床転帰に与える影響を明らかにすることを目的とした。 本研究は、入院中及び退院1年後でアンケート調査実施した100人の心不全患者を対象とした。入院中にセルフケアに関する心不全教育プログラムを施行した後、退院前にセルフケアに対する自信度をアンケートで評価し点数化した。退院1年後に、ヨーロッパ心不全自己管理行動尺度を用いて、セルフケアの実際の達成度を評価した。さらに、その時点から2年間の全死亡および心不全入院をエンドポイントとした臨床転帰との関連を探索した。 退院1年後においてセルフケアの達成度が特に低かった項目は、「倦怠感が増したとき(40.0%)」や1週間で体重が約2kg増えたとき(52.0%)に医療者や医療機関へ連絡をする」「定期的に体を動かしている(57.0%)」の三項目であった。医療者や医療機関への連絡行動は、入院期間中での自信度は高かったが、退院後の達成度は大きく低下していた。また退院1年後の達成度の低さは、入院中に評価された自信度の低得点と関連した(オッズ比: 1.11,信頼区間: 1.00–1.21)。セルフケア達成度の低さは、その後2年間の臨床転帰と関連は示さなかったが、左室駆出率の低下した心不全(ハザード比: 4.04, 信頼区間: 1.17–13.89) および心不全入院歴を有する患者(ハザード比: 3.66, 信頼区間: 1.46–9.13)では、不良な転帰と関連した。 本研究は、心不全患者におけるセルフケア達成度の低い項目を明らかにするとともに、入院期間中のセルフケアに対する自信度の向上が、移行期ケアの質および臨床転帰の改善に関連する可能性を示唆した。移行期ケアの質を高めるために、退院前から多職種が関与し、患者のセルフケアに対する自信度を高めることを目的とした効果的な指導の重要性が、本研究の成果から示された。これらの知見は、心不全患者に対する退院支援の在り方を検討するうえで、臨床的にも意義深い示唆を提供するものである。				